

| | | | | | | |
|---------------------------|--|--------|----------|--------------|----------|--------|
| 事業名 (箇所名) | 国立民族共生公園 | | 担当課 | 都市局 公園緑地・景観課 | 事業 主体 | 北海道開発局 |
| | | | 担当課長名 | 古澤 達也 | | |
| 実施箇所 | 北海道白老郡白老町 | | | | | |
| 該当基準 | 事業をめぐる社会経済情勢等の変化 | | | | | |
| 主な事業の諸元 | 公園整備: 計画面積9.6ha、供用面積0.0ha 公園維持管理: 供用面積0.0ha | | | | | |
| 事業期間 | 事業採択 | 平成28年度 | 完了 | 平成32年度 | | |
| 総事業費(億円) | 75 | | 残事業費(億円) | 23 | | |
| 目的・必要性 | <p><解決すべき課題・背景></p> <ul style="list-style-type: none"> 国立民族共生公園は、アイヌ文化の復興等に関するナショナルセンターとして、アイヌの歴史・文化等に関する国民各層の幅広い理解の促進拠点並びに将来への文化継承及び新たなアイヌ文化の創造発展につながる拠点として設置される施設であり、閣議決定を経て事業化した公園である。 <p><達成すべき目標></p> <ul style="list-style-type: none"> 自然と共生してきたアイヌ文化への理解を深める。 異なる民族が互いに尊重し共生する社会のシンボルとなる空間を形成する。 豊かな自然を活用した憩いの場を提供する。 <p><政策体系上の位置付け></p> <ul style="list-style-type: none"> 政策目標: 良好な生活環境、自然環境の形成、バリアフリー社会の実現 施策目標: 良好で緑豊かな都市空間の形成、歴史的風土の再生等を推進する | | | | | |
| 事業の効果等 | <ul style="list-style-type: none"> アイヌ文化の継承、創造発展 アイヌ文化の理解及び交流の促進 地域活性化の促進 | | | | | |
| 社会経済情勢等 の変化 | <ul style="list-style-type: none"> 民族共生象徴空間の全体的な検討を取りまとめるなど、上位計画を決定するアイヌ政策推進会議等において、公園施設の設計について検討が進み、その内容・条件等を反映する必要が生じたもの | | | | | |
| 主な事業の進捗 状況 | <ul style="list-style-type: none"> 平成30年度末までに全体事業費約75億円のうち約71%に当たる約53億円を執行 計画全体事業費約75億円、うち用地費約6億円 投資事業費約53億円(進捗率 約71%)、うち用地費約4.2億円(進捗率 約68%) 用地確保済面積約6.9 ha(用地確保率 約71%) <p><未供用の場合、その理由></p> <ul style="list-style-type: none"> 2020年4月供用予定のため。 | | | | | |
| 主な事業の進捗 の見込み | <ul style="list-style-type: none"> 2020年4月供用に向けて整備を推進する。 | | | | | |
| コスト縮減や代 替案立案等の可 可能性 | <p><コスト縮減の検討・実施状況></p> <ul style="list-style-type: none"> 軟弱地盤対策のプレロード工法に使う土砂は、近接する白老港の浚渫土を利用することによってコスト縮減を図る。 <p><代替案の検討状況></p> <ul style="list-style-type: none"> 国立民族共生公園は、アイヌ文化復興等に関するナショナルセンターとなる民族共生象徴空間の中核施設であり、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会に合わせて一般公開することが閣議決定されているもの。2020年4月のオープンに向けて、当公園施設の設計は、関係者・関係機関との協議・調整の下で、鋭意進行中であり、現在の設計方針と異なる代替案の立案は困難である。 | | | | | |
| 対応方針 | 継続 | | | | | |
| 対応方針理由 | 事業の必要性・重要性の視点から総合的に判断したため。 | | | | | |
| その他 | <p><第三者委員会の意見・反映内容></p> <p>対応方針(原案)のとおり「事業継続」でよいと判断される。</p> | | | | | |